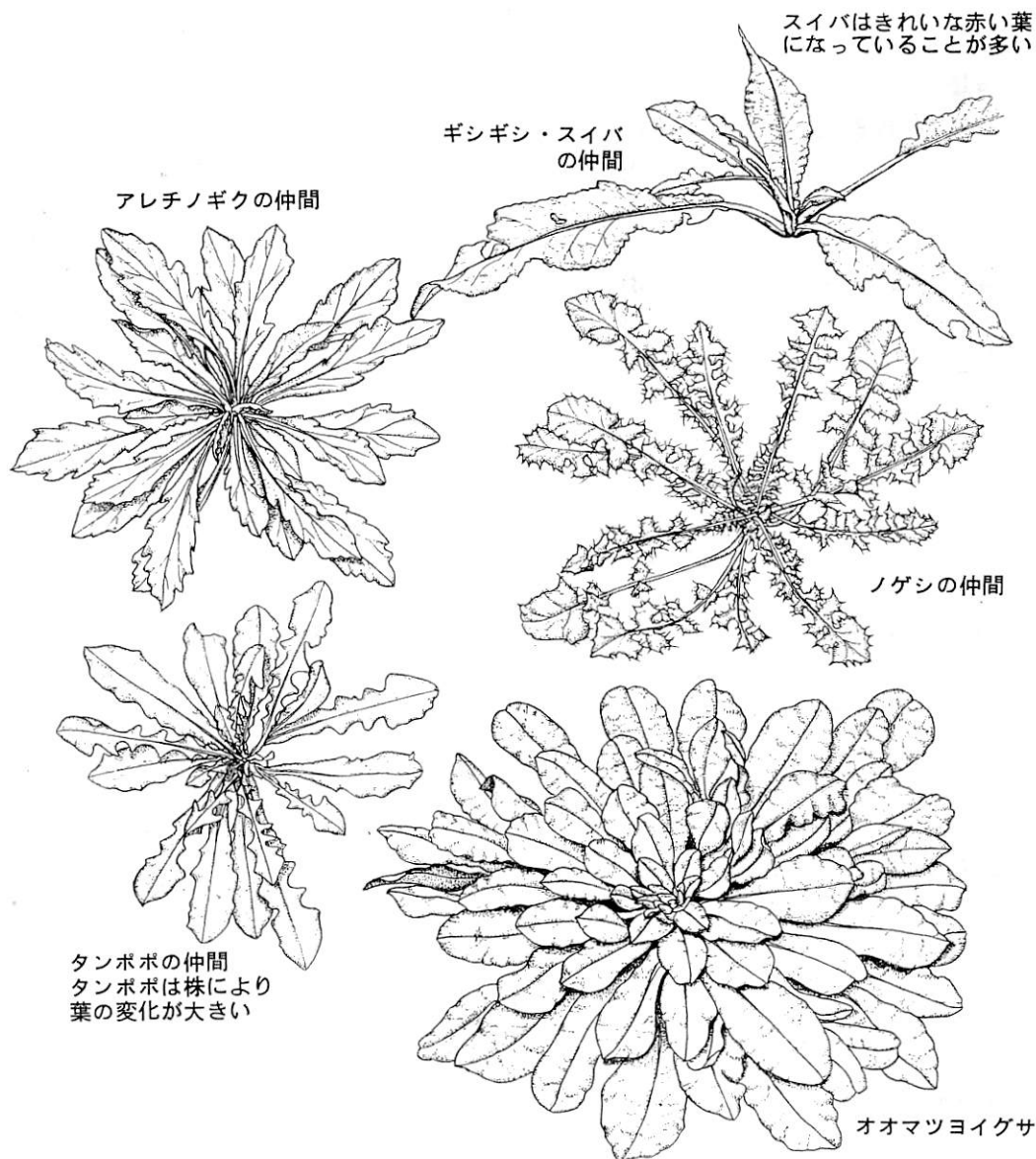


## 春を待つ植物たち



# 協 議 会 ニ ュ ー ス 20 号

- 春を待つ植物たち  
( 辻 伸夫 ) .....表紙
- 会員紹介 ⑤ ..... 2  
私と自然 ( 岩崎龍生 )

- 
- 特集  
自然観察指導員講習会 ..... 3  
( 北岡明彦 )
- 

- 観察あれこれ ( 北岡明彦 ) ..... 7
  - 支部だより ..... 8
  - 会員広場 ..... 9  
浅井常典  
家田健吾  
神戸 敦
- 

- 観察と研究 ..... 11  
カワヨシノボリのすみわけ ( 中島芳彦 )  
愛される都市の中のため池 ( 玉井房子 )
- 

- 行事報告 ..... 13
- 会員移動 ..... 14
- 行事案内 ..... 15
- 前号の訂正 ..... 15
- お知らせ ..... 15

## 多年草の冬姿……

### ロゼット葉

節分草の咲く頃……そして立春  
野原の植物たちも、冬の寒さを  
耐え抜くための工夫をしています。  
この時期寒さは厳しくとも“光の  
春”はもう訪れています。ひと足  
早く訪れるこの春をたくさん受け  
止めようと、植物たちは地面に葉  
をピッタリくっつけて寒風を避け  
ながらも、温かい春を待ち焦がれ  
ているのです。この植物たちの冬  
姿……みなさんは、ごらんになり  
ましたか。やがて花咲く春が訪れ  
た時、この植物たちにはそれぞれ  
に大きな変化が起こります。

植物のくらしに焦点を絞って、  
植物の一生を続けて観察すると自  
然のすばらしさや功妙なしくみを  
たくさん発見できるでしょう。寒  
さに耐え、春を待ち焦がれていた  
植物たちの活動がもうすぐ始まり  
ます。

私たちも、この植物のスタート  
ラインに一諸に並んで、野原の自  
然・植物のくらしをながめてみる  
ことにしましょう。

( 辻 伸夫 )

# 私 と 自 然

岩崎龍生（監事）



## 少年期の体験

私は京都北山育ち、山林90%、林業と農業の村で少年期を過ごしました。川で魚をとり、野山で虫を追ひ、野山を駆けずり回って遊びました。その

中でも、夏のセミ・トンボの羽化は毎日早朝にとりに出かけ、純白のすばらしさにみとれていたのです。暗い所に入れておけばいつまでも純白だと思い、暗い所に入れておいても色が変わるのが、不思議なようで不思議でなかったものです。カブトムシは苧の苗床とか、かやぶきの尾根のふき替え後放置して冬を越したもののの中に沢山いたもので、林の中でとることは考えてもみませんでした。

## 青年期の自然観

青年期になっても北山をほつつき歩き、東北や北海道の山々にも出かけましたが、岩山には魅力がなく、800 m前後の北山によく出かけ、特に京都大学農学部付属芦生演習林の原生林には感動したものでした。少年期・青年期に、自然から何か得ようというのではなく、ありのままにつき合えば、自然は与えてくれるものというのが、私の自然観です。

## 公害問題

村を流れる川は生活用水・農業用水に使い、生活廃水を流し、私達は川に依存して生活して来ました。古くから「三尺流れて水清し」と言われてきたように、川に流せば、自然がすべてきれいに処理してきましたが、最近では、経済の高度成長とともに廃棄物の量が増え、河川の浄化能力を越えてしまいました。そのため、河川は下水化し、湖や沿海はごみ留めとなりました。そんな時、研究室に干潟で死亡した鳥が持ちこまれ、魚を主食にしている鳥も汚染されているのに驚きました。し

かし、当時は一般市民に報道すれば大変な問題になるとの判断で、10年後にやっと公害問題として公にされました。

## 私の目指す観察会

野鳥の多く集まる所を守る事は大切ですが、その餌となる魚や水生昆虫は健康だろうか。北アメリカの五大湖やフィンランドのキルコジェルビ湖では、魚を食べる人々が水俣病症候群におかされています。動物や植物の名前を覚えることでなく、周囲の環境をよく知ることの方が大切ではないでしょうか。

そこで、私が目指す観察会は、長い間続けて実施するとともに、知識過剰になることを避けたいと思います。

見る → 気付く → 調べる

参加者ひとりひとりが興味を持ち、楽しみながら自然を観察できるような観察会が私の理想です。そういう点からすると、現在行われている観察会は、内容が多くて難しいような気がします。もっとわかりやすく、誰でも楽しめるような観察会を開いてはどうでしょうか。



# 自然観察指導員講習会

63”協議会パワーアップ大作戦

北岡明彦（瀬戸市）

昭和62年11月21日～23日にかけて瀬戸市定光寺において、愛知県では6回目、全国では119回目の自然観察指導員講習会が開催されました。

今回の参加者は、県内55名・県外10名で、一番遠距離は北海道の帯広市からの参加者もありました。20代から30代前半の参加者が多いせいか、講習会は熱気にあふれていました。朝7時から夜9時までびっしり詰まったハードスケジュールでしたが、怪我人もなく、全員講習会を無事終了することができました。

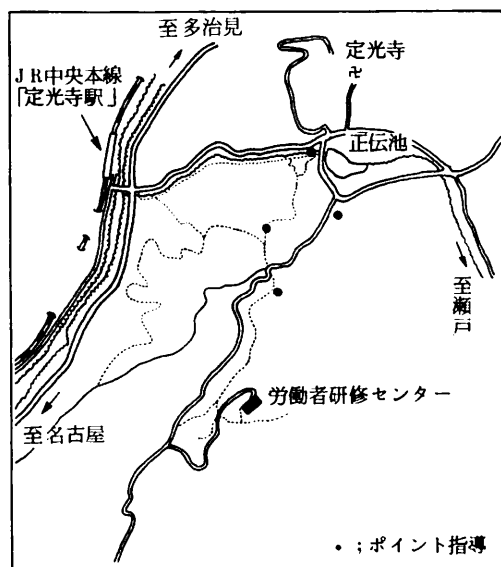
それでは、今回の講習会の概要をお知らせします。

名称：昭和62年度愛知県自然観察指導員講習会

場所：瀬戸市川平町78

愛知県労働者研修センター

日時：昭和62年11月21日（土）午後1時から11月23日（月）午後2時30分まで



講習会開催場所周辺地図

## 参加者

### （協会講師）

金田平（財）日本自然保護協会

吉田正人（財）日本自然保護協会

### （地元講師）

大竹勝（財）日本モンキーセンター

竹内哲也 知多市立旭北小学校

北岡明彦 愛知県農地林務部治山課

国枝利満 愛知県立刈谷北高等学校

佐藤国彦 愛知県農地林務部農業用水課

富山茂 愛知県農地林務部林務課

長尾智 春日井市立中部中学校

松尾初（株）中部環境緑化センター

### （事務局）

酒井隆司 愛知県農地林務部自然保護課

村田敏子 愛知県農地林務部自然保護課

### （参加者）

	男 性	女 性
県 内	40	15
県 外	10	—
合 計	50	15

## 1 講習会の概要

11月21日（土）

○受付（12時30分～13時）

○あいさつ（13時～13時10分）

愛知県自然保護課長の永田与志光さんと日本自然保護協会常務理事の金田平講師から、あいさつをいただきました。

○オリエンテーション（13時10分～13時25分）

○実習Ⅰ 森の自然観察（13時25分～16時）

協会講習により実習を行い、駐車場からJR定光寺駅方面のスケッチをしたり、林の中に入って階層構造や土壌動物を観察したりしました。



### 金田講師による森の観察

○自己紹介（16時10分～17時）

○講義Ⅰ 自然保護を考える。（19時～21時）

夕食後19時から、金田講師により「自然保護を考える」という題で、2時間の講義がありました。先生の長い経験から得られた体験談を主に、自然保護観や自然保護のありかたについて熱弁をふるわれましたが、2時間という時間はあまりに短かくて、とても話し尽くせなかった様子でした。

11月22日（日）

○実習Ⅱ 現地の自然を理解する。

（7時5分～8時）

この時の地元講師陣のねばけ眼を、皆さん見ましたか。夜中の3時過ぎまで、協議会のあり方について論じていたのです。目をさましたのはちょうど7時で、顔を洗わず、着換えしただけで、玄関までとび出したのでした。

バイトトラップ・リーフトラップ・こも巻トラップの3種類の仕掛けを使った観察をしましたが、何しろ寒かったというのが印象でした。

○実習Ⅲ 観察テーマを考える（9時～12時）

協会講師により、自然と人間生活の調和、身近な自然観察のテーマ探しについて実習をしました。林床に寝ころんだり、ネイチャーゲームをしたりして、新しい感覚が少し体験できたと思います。なお、吉田講師は、協会の機関誌「自然保護」で、現在ネイチャーゲームについて連載執筆中です。

○実習Ⅳ 自然の仕組みを考える

（13時～16時30分）

2日目午後のポイント別指導が、今回の講習会のメインイベントです。指導ポイント4カ所を決め、各25分ずつの持ち時間で、地元講師が解説し

ました。講師は、富山（人工林の施業）、佐藤（草地の植物）、長尾（水生昆虫と食物連鎖）、国枝（地質と土壌）の4氏が担当し、残り4名が班リーダーを務めました。リーダーは、協議会のベテランが各自特有の方法で行いました。10人のリーダーがいれば、10通りの指導方法があるはずですから、本当は班リーダーも交替するとおもしろかったと思います。受講者の皆さんに、どんな印象を与えたでしょうか。

リスの食痕を残したマツボックリ、じつに格好のいいツクバネガシの実などが見られました。4ポイントのうち、最も好評だったのは、水生昆虫でした。小さな流れにたくさんの生物がいましたし、意外と女性がヘビトンボを気に入ったりして。

○講義Ⅱ 自然保護教育と自然観察の基礎

（19時15分～21時15分）

あろうことか、定刻になっても食事が出てこないという緊急事態のため、夕食と講義の間隔が、「0」となってしまいました。そのせいか、前半の講義「自然保護教育を考える」の間は、コックリ・コックリしている人も何人か。

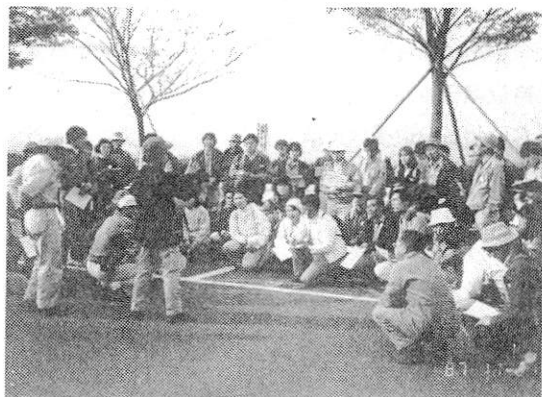
続く後半の講義「自然観察の基礎—愛知県の自然—」は、最初の「絶対寝させませんよ！」の絶叫がきいたのか、寝ている人はいなかったようです。何しろ話したいことはたくさんあるのに時間が短かく、特に環境指標生物について話せなかったのは心残りです。

11月23日（月）

○実習Ⅴ 道具を使つての観察（7時～8時）

顕微鏡を使ってダニを主とした土壌動物の観察をしましたが、受講者・講師ともに疲れが出てお

### 長尾講師による水生昆虫の観察



り、みんな動きが鈍かったようです。顕微鏡は、大半を会員の伏屋氏にお借りしました。ツルグレン装置を使ったこの観察は初めての試みでしたので、手法・説明に統一性を欠き、やや問題があったように思います。

#### ○演習 観察指導のしかた (9時~12時)

準備から本番まで苦労と疲労の連続だった地元講師陣の唯一の楽しみの時間がやってきました。持ち時間ひとり5分というのは短かすぎるような気もしますが、みんなの緊張した顔つきを見るのが楽しみなのです。観察会で説明した経験のある人、学校の先生方は、おちついた話し方になります。やはり、慣れが一番のようです。

最後に、金田先生の講評がありました。

#### ○オリエンテーション (13時~14時)

私達の協議会に加入された方は全部で48名。内訳は、名古屋支部16名、尾張支部17名、知多支部5名、西三河支部4名、東三河支部8名で、名古屋支部と尾張支部の重複加入2名です。やはり、開催場所の有利性がよく出ています。

#### ○あいさつ (14時~14時30分)

協会講師2名、地元講師8名が御礼のあいさつを行い、新指導員の皆さんのこれからの活発な活動への期待を述べました。最後に、講師陣及び事務局に対し、受講者の皆さんから御礼の拍手をいただきましたが、これでやっと終わったという感じがしました。

参加者の皆さん、2泊3日の講習会、本当に御苦労様でした。

このようなハードスケジュールの講習を全員無事通過し、晴れて指導員の資格を得ることになりました。

昭和62年11月末現在の愛知県自然観察指導員連絡協議会加入の指導員は232名でしたが、今回新たに48名の指導員を増やすことができました。各支部ともに、実動指導員不足とメンバーの固定化が問題となっています。「鉄は熱いうちに打て」という諺もありますように、現在最も燃えている新会員の皆さんですので、これから各支部の活動においても積極的に参加して下さいをお願いします。

## 2 アンケート結果

次に、講習会終了後に受講者の皆さんに書いていただいたアンケート結果を、おおまかにまとめてみました。

66名のうち、62名(94%)の方に回答をいただきました。

### ① 講習会について

時間がなかった(9)

話し合う時間がなかった(8)

内容がハードだった(2)

内容にまとまりが欲しい(1)

開発反対色が強く少し疑問を感じた(1)

学習面が出すぎた(1)

もっと時期を早くして欲しい(1)

各科目の内容をもっと深めて欲しい(7)

共感した(3)

充実していた(4)

よくわかった(3)

面白かった(11)

自然の見方がわかった(10)

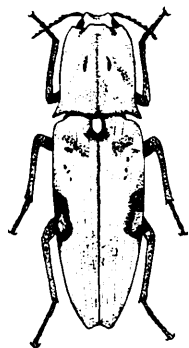
自然保護の重要性がわかった(2)

勉強になった(5)

熱心さを感じた(3)

### ＜おまけ＞

受講者の皆さん、21日の午後アカマツの樹皮下で越冬していたフタモンウバタマコメ



ツキ(コメツキムシ科)

と、22日午後に地質のポイント付近にあったサカキに寄生のヒノキバヤドリギ(ヤドリギ科)を見ましたか?

前者は暖帯系のコメツキムシでシイ・カシ林の代表的昆虫で、尾張地区での確認は2頭

フタモンウバタマコメツキ目(?)程度の珍しいものです。後者は尾根筋のやせ地に見られる寄生植物でかわった姿を見をひきます。

おおむね好評をいただけたようでホッとしていますが、時間的にみて内容が多かったことと、会場の関係で夜のディスカッションが出来なかったことに意見が集中しました。これから講習会を行う際には、この点を最も注意したいと思います。

なお、今回は、「採集しない」「名前にこだわらない」の2点があまり強調されなかったせいかわれらるるに關する意見がありませんでした。

#### ②・今後の要望について

更に指導員の講習会を求む(15)

日程をわけて欲しい(2)

人を集めるイベントをするとよい(1)

能力別の講習会がよい(1)

ただ1回の講習会では入門にしかならず、もっと講習会を続けて欲しいという意見をたくさんいただきました。協議会としても、年3回の講座研修会(63年度は植生研修2回と土壌動物研修1回を現在計画しています。)を実施しますし、各支部の月例観察会や例会でいろいろな経験・研修を積むようにして欲しいと思います。結局は、自分のやる気が基本です。

### 3 講習会をふりかえって

今回の講習会は、11月下旬という日照が最も短い時期で、しかも会議室が9時締め切りという悪条件のなか、例年より内容が圧縮された形となつて、時間的余欲のなかった点を最も反省しております。

もっとも、前回(昭和60年度)の講習会は、朝6時から夜10時までギッシリとスケジュールがまわっていましたから、体力的には今回の方が楽だったはずです。

これからもできるだけ数多く指導員講習会を実施し、ひとりでも多くの仲間を増やして行きたいと思っています。

今回講習を受けられた方だけでなく、会員の皆さんの御意見を伺いながら、よりよい講習会を開けるよう努力していきたいと思ひます。

### 4 講習会の感想

最後に、今回参加いただいた、協会講師の吉田さん、地元講師の大竹会長と、受講者を代表して

三輪さんに、印象・感想を簡単にうかがいました。

#### 愛知県自然観察指導員講習会に参加して

昨年、11月21日～23日、瀬戸市の労働者研修センターにおいて、今年度最後の自然観察指導員講習会が開催され、67人の方が新たに自然観察指導員の仲間入りをしました。

協会からは、金田常務理事、田村書記と私の三人が参加させていただきました。私は3月まで東京都高尾ビジターセンターに解説員として勤務しておりましたので、東京都以外の研修会に出るのは昨年がはじめてでしたが、愛知県自然観察指導員連絡協議会の皆さんの活躍には目を見張るものがありました。

佐藤さん、北岡さんの「自然保護教育と自然観察の基礎」の講義には、協会の理念が貫かれておりました。大竹さん、竹内さん、松尾さんをはじめとする講師陣による野外実習は、朝の実習(ベートトラップやツルグレン装置による土壌動物観察)まで入ってたいへん充実していました。

会場のつごうで、夜ワイワイと話せる場がつけられなかったのが残念でしたが、全体に、「自然観察会を運営する仲間を自分達の力で増やそう」という意気込みが感じられ、これが連絡協議会への加入率の高さに反映されているのだと思ひます。

皆さんの今後の御活躍を期待します。

(日本自然保護協会 吉田正人)

#### 自然観察指導員講習会で感じたこと

今回の講習会の参加者を見て平均年齢が若いということ、参加者の中にかつて自然観察会へ参加した人たちが以外に多かったことなど、前回の講習会の雰囲気と異なつたものを感じました。私たちのめざす観察会は、参加者ひとりひとりが自然の指導者として、より多くの人たちを自然とつなぐ役割を果たすことが一つの目的です。自然を理解する人が多くなることは自然保護を推進するためには一番重要なことです。毎年観察会を続けていてこれでいいのだろうか?という疑問をもつてきた人も多かったと思ひますが、指導員講習会も6回になつてその成果が現われ始めました。このような活動は、歩みは遅くとも息長く続ける必要があつたことを改めて感じました。

今回残念なことは、会場の関係で、講師と受講

者の対話が少なかったことです。一方的に講義を受け、未消化のまま帰られた人も多いと思います。その人たちも講習会での未消化のものをそのままにしないで、今後・協議会の各種活動に参加され色々な人たちと討議を重ね十分消化し、自己研修を積みかさね、より多くの自然を理解する仲間を増すことに努力して頂きたいと思っています。

(会長 大竹 勝)

#### 自然観察指導員講習会に参加して

以前から受講したく思っていた自然観察指導員講習会に、地元にて参加することができました。それも欠員による参加です。あきらめていたところに連絡をいただき、まずスケジュール表に目を通したのですが、朝は7時から、夜は食事・入浴の後に21時までと記してあり、しばし、目が点になりました。(後で聞いたところ、いつもはもっとハードとのこと?!)というのも、しつこい風邪の病み上りだったのです。「持つかしら?居眠りしないかな?」等の弱腰を押して、何はともあれ、定光寺に赴いたのです。

そんな不安も、初めの野外実習を受けて吹き飛んでしまいました。もっと大きな不安にかられてしまったのです。観察会というものには参加したことがなかったけれど、街でも、山でも、木に草

に虫に八虫類に………と自然に親しんできたのに、観察となると何やらつかめなくなってしまったのです。まして、それを言葉にするのは、なんと難しいことか。自然が好きで、自然が粗末に扱われるのが悔しくて、だれど人に話せるほど力はない。それを学ぶことが出来たらと思って、参加した講習会ですが、その時は、自分の好きな自然さえ見えなかったのです。でも、地面の中を探ったり、色々なネイチャーゲームをしたりして観察会の仕方と楽しさを知ることが出来ました。

最終日の演習は、どうなることかと思いましたが、日頃感じていることを出すことができなかったーと思っています。

いろいろと勉強になった講習会ですが、今までに増して知識の必要性を感じました。コレクター的な愛好家も困りものですが、無知な自然遊び大好き人間にもなりたくないし、なってほしくないと思うのです。知ることにより、より好きになる。そんなあたりまえのことを気づかせてくれた講習会でした。

この講習会を催して下さった皆様に、この場を借り、お礼申し上げます。

(名古屋市 三輪治代美)

## 観察あれこれ

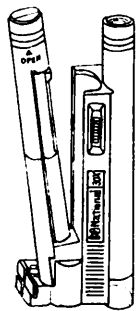
### 自然観察の小道具

北岡明彦(瀬戸市)

今回は、自然観察会でミクロな自然界の神秘を参加者に見てもらうための小道具を紹介します。

最も一般的なのはルーペで、多種多様あり自然観察指導員の必須道具ですが、実際の自然観察会ではほとんど使っていません。慣れないと意外と見にくいものです。

その点、今回紹介するナショナルの「ライトスコープ」は顕微鏡に近い使用方法で、一度焦点を合わせれば、誰でも見るができます。簡単に説明すれば、照明装置付きの固定式ルーペといったもの



ライトスコープ

です。倍率は30倍と100倍の2種がありますが、解像力の問題で20倍(2,500円)の方が手頃です。特にセンダングサの実の逆刺、オオカメノキの葉裏の星状毛や土壌動物のカニムシ程度のもを参加者に見せるのに最適です。

その他、双眼鏡に専用スタンドをセットして、簡易な双眼実体顕微鏡として使えるものがあります。しかし、超高価(西独のカルツァイス社製で双眼鏡10×25で78,000円、専用スタンド46,700円)で、ちょっと手が出ないのが残念です。

こうした小道具を使い、参加者に新しい世界を見てもらえば、自然観察会でも好評を博すものと思われれます。





## Spaceship Earth

(宇宙船地球号)

浅井常典 (名古屋)

「人間と自然」を考える場合、宇宙船地球号という見方をすると中学生にも理解されやすい。地球上のすべての生物は、大気に包まれた閉鎖系の中でしか生存できない。

この宇宙船は、約30億年もの長い年月をかけ進化の過程を経て、いろいろな生物を育み現在はその乗客も百万種以上にのぼるといわれている。乗客は、数10億年かけて互いに調和を保って旅をしている。これは、乗客同志(自然)がつくりあげた精巧で複雑なシステムである。

しかし、約3万年ほど前からそれまで自然界の一員であった人間が、独自の道を歩み始めた時から、この宇宙船に故障の原因をもたらしたといえよう。人間が、人工的な環境に生活するようになり、より快適な生活を求めてきたことが、有限資源を使い、船内の大気を汚し、乗客すべての生存を危くするような宇宙船のトラブル(自然破壊や汚染)をもたらした。

では、宇宙船地球号のすべての乗客(自然)が生存し栄えていくためには、とりわけ宇宙飛行士ともいえる若い君たちの手にゆだねられている。(これは、中学3年理科「人間と自然」における授業の最初に話した内容の抜粋です)

※「宇宙船地球号」を最初に提言したのはアメリカのケネス・E・ホールディン博士である。

### 個体発生は・・・

家田健吾 (豊橋市)

幼い子どもを見ていると、どんなものにも興味を示します。本能としての好奇心がそうさせているのでしょうか、この段階で自然と遊び親しむことがたいへん重要なのではないのでしょうか。

「個体発生は系統発生を繰り返す」といわれ、同じように、人も誕生してから大人になるまでに

その歴史をたどるような生活をするべきだという意見があります。つまり、歩きはじめの頃は猿人2~3才では、原人、旧人、新人と急ピッチに進み、石器、土器(土・砂あそび)を使い、4~5才は縄文・弥生時代で、農耕や牧畜(植物の栽培動物の飼育)などという段階を経ていく必要があるだろうということです。これはたいへん自然な考えであり、重要なことだと思います。縄文や弥生をすっ飛ばして、現代人になってしまったように、テレビやファミコンに夢中では、旧人あたりから突然変異したかのように「新人類」といわれるものなるほどという感じがします。私もどちらかというとな新人類の方に入るかと思いますが、単なる突然変異種ですぐ滅びるのでなく、歴史の欠落をうまく補って、成長したいと思っています。

### 道

神戸 敦 (豊橋市)

昨秋、豊橋公園で観察会があり、ポイントの1つに「道のでき方、うつりかわり方」をとり上げました。芝生の中を横切る道があったり、土塁上や草むらの中にいくすじの道がありました。あちこちに道ができると自然荒廃へつながるという見方がありますが、内心、公園内がアスファルト化されつゝあるご時世、このように道ができる余地があることにホッとしたのも事実です。

私の住む町の近くに鎌倉街道があります。両側は木でおおわれ、切り通しがあったりして冬は北風をさえぎり暖かく、夏は強い日差しをさけ涼しく歩くことができます。約800年前、先人達がつくった道ですが、それ以後も幾多の人々が歩いてつくってきた道でもあります。この道も人が歩かなければ道とはいえなくなります。今年はこのような古道をせっせと歩きたいと思っています。

次回のリレー投稿は、佐野 滋さん、滝崎吉伸さん、佐藤国彦さんをお願いします。

(原稿〆切: 3月20日) 郵送先 トナミ

## 支部だより



1 月には、各支部の総会が行われました。そこで決まりました各支部の役員と主な行事予定は次のとおりです。

### 尾張支部 (63.1.10 於犬山市)

#### ◎役員

支部長：伏屋光信、 副支部長：近藤 修  
会計兼顧問：松尾 初  
企画委員：森本 修、長崎義人、三輪治代美  
富山 茂、北岸政男、田内たづ子

#### ◎行事

自然観察会…… 5.29 善師野(犬山市委託)  
6.5 光明寺緑地(全県一斉)  
11.6 定光寺(県委託)  
月例観察会……毎月第2日曜日 午前9時から  
偶数月は定光寺、奇数月は善師野

### 東三河支部 (63.1.17 於西部デパート)

#### ◎役員

支部長：武田孝夫、 幹事：鈴木友之  
会計：山本公美子

#### ◎行事

自然観察会…… 5月 竹島(県委託)  
6.5 御油松並木(全県一斉)  
9月 汐川干潟  
11月 嵩山の蛇穴  
研修会等…… 2.28 自然観察等の勉強会  
4月 宇連ダム  
8月 茶臼山周辺

### 西三河支部 (63.1.24 於勤八峡)

#### ◎役員

支部長：三津井 宏 副支部長：宮本敬之助  
幹事：水鳥富人・岡田慶範

#### ◎行事

自然観察会…… 3.27 飯盛山(香嵐溪)  
6.5 州原池(全県一斉)  
10.23 岡崎市東公園(県委託)

研修会等…… 11.20 猿投山観察会

### 奥三河支部 (63.1.24 於新城市)

#### ◎役員

支部長：石川静雄 副支部長：杉山 茂

#### ◎行事

自然観察会…… 6.5 桜渚公園(全県一斉)  
7.31 鳳来寺山(県委託)  
10月 鳳来町大島川

### 知多支部 (63.1.25 於東海市)

#### ◎役員

支部長：加藤寿茂  
幹事：降幡光宏・中野 修

#### ◎行事

自然観察会…… 4.17 野間海岸(県委託)  
6.5 半田市文化広場(一斉)  
9.25 半田市文化広場  
10.30 大池公園(東海市主催)  
研修会等…… 6.3 キノコ、 7.31水生昆虫  
11.15 冬の動物 12.4 植物の  
芽 1.15 冬の野鳥  
室内例会を毎月第2金曜日  
(8月、12月を除く)

### 名古屋支部 (63.1.31 於名東区)

#### ◎役員

支部長：国枝利満 副支部長：佐野 滋  
会計：福西寿広

#### ◎行事

自然観察会…… 5.8 相生山緑地(地元共催)  
6.5 平和公園(全県一斉)  
9月 大森湿地  
11月 猪高緑地(県委託)  
研修会等(予定)……堀川観察会、天文と地質  
観察会、鈴鹿登山  
室内例会を毎月第3水曜日

## 尾 張 支 部

1月10日(日) 善師野月例観察会・支部総会

尾張支部は、昨年の新加入会員を加えて、総務70名の大会所帯となりました。しかし、月例観察会の出席者は最多でも12名と、決して多くはありませんでした。各支部共通の悩みだと思いますが、指導員の実動をいかに多くするかがポイントです。

1月10日の午前中は犬山市善師野で月例観察会を行い、午後は同市の岩田洗心館(会員の岩田さん宅)に場所を移して総会を行いました。

観察会には24名の参加があり、活気を帯びたものとなりました。イワオモダカ・ビロードシダ・シモツケヌリトラノオといった、おもしろい形態のシダや、シメ・ノスリ・オオタカ等の野鳥を楽しむことができました。この善師野コースは、天然林もなく、一見したところは平凡ですが、何度歩いても、新しい発見があります。尾張支部以外の会員の方も是非一度おいでください。

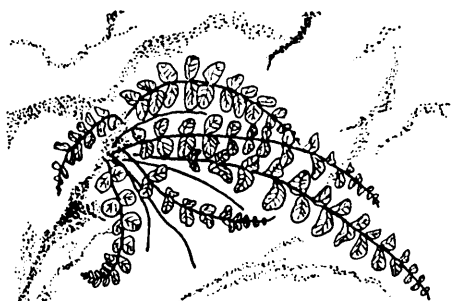
午後は1時半から4時まで支部総会を行いました。参加者は30名で、これも過去最高の人数です。このうち62年度新指導員が10名も含まれ、旧指導員には大いに刺激になったと思われます。

総会では、支部長に伏屋光信、副支部長に近藤修、会計兼顧問に松尾初彦の各氏が選出されたのを始め各担当委員が決まりました。全員で力を合わせて、支部活動の活性化に向けて頑張っていきたいと思います。

また、月例観察会の強化のため、毎月テーマを決めて実施することも決まりました。

なお、総会終了後、鈴鹿山系藤原岳の花と植生のスライドを楽しみ、5時に終了しました。

(北岡明彦)



シモツケヌリトラノオ

## 名古屋支部

1月20日(木) 例会 (於名古屋市教育館)

毎月第3水曜日に行っている例会は、今回で55回目になります。支部の皆さんを中心に日頃考えていること、調べてみたことの発表の場として位置づけたものです。

今回は、名和 明さんの「豊仙岳のカモシカ」の話の聞きました。名和さんは、以前から豊仙岳をフィールドとして、カモシカの定点調査を続けており、また足尾銅山周辺にも出かけています。

当日は、スライドをまじえてカモシカの生態、個体差、被害防除活動などの説明を受けました。1度同行してみたいという顔をした会員も何人かいたようです。

1月31日(日) 観察会及び総会

10時に集合して、午前中は猪高緑地の観察、午後は支部の総会を行いました。

猪高緑地の観察は、現地に詳しい布目さんの案内で、木の芽や樹幹など冬の樹木を主として行いました。邪魔な?葉がないだけに、改めて樹の肌や枝ぶり、芽の状況などるじっくり見ることができました。よく知っていると思っている樹木でも、実は知らないことがたくさんあることを感じました。塚ノ杵池にはカイツブリが5羽、水面を走るように飛んでいました。また、帰り道ではジョウビタキが己を誇示するように、道端に止まっていた。

午後の総会は、例によって62年度の行事報告、会計報告を行い、63年度の事業及び役員の検討を行いました。自然観察会は、慣れた場所で行うか新しい場所で行うか大分迷いましたが、結局全員の投票のような形で4カ所に決まりました。問題は、私たち自身が、名古屋の自然の状況をよく知らないことにあるようです。その他いくつかの行事案が出され、後日調整することとなりました。

参加者は、観察会6名、総会11名と非常に少ないのが残念でした。総会に出るといろいろ役をおおせつかるということかもしれませんが、来年は何とか多くの方に来ていただくようにしたいものです。

(佐藤国彦)

# ヨシノボリのすみわけ

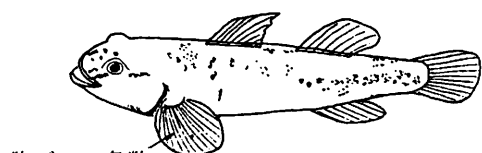
中島芳彦（豊橋市）

淡水魚を大きく区分すると、遊泳魚と底生魚に分けられます。前者の代表としてフナやオイカワが一般的に見られ、底生魚の代表としてヨシノボリが広く見られます。

今回、ヨシノボリの仲間の分布状況を豊川全流域で観察したところ、源流域の設楽町大名倉でのみカワヨシノボリを確認し、あとは全てヨシノボリでした。これは、大型の個体を主に調査した結果かもしれませんが、『愛知の動物』等一般の書物ではカワヨシノボリしか記載されておらず、興味深い調査結果だと思います。また、ヨシノボリも

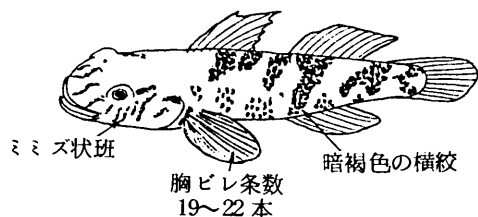
川的环境によりいろいろなタイプが、それぞれの好みの場所にすみわけていることに気がしました。上流部には黒色大型と横紋型のヨシノボリが混在して生息していました。一方、細流には矮小化した燈色型のヨシノボリが数多く見られました。そして、河口に近い豊橋市当古橋では、早瀬にヨシノボリがいるのに対し、平瀬には、より大型で汽水域を主な生活場所とするチチブが見られました。

こうしたすみわけの原因は、残念ながらわかりませんが、考えられるものとして、水温・流速・河床の状況や他の魚との競合等があります。さらにデータを集積して、考察をすすめる必要があるでしょう。



胸ビレの条数  
15～17本

①カワヨシノボリ



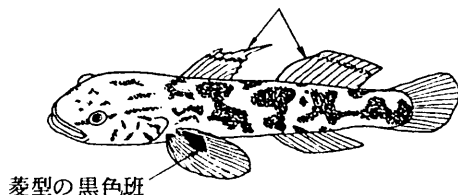
ミミズ状斑

胸ビレ条数  
19～22本

暗褐色の横紋

②横紋型ヨシノボリ

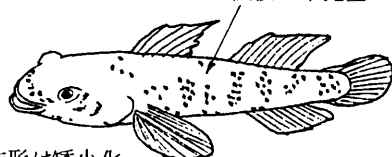
周縁は白い



菱形の黒色斑

③黒色大型ヨシノボリ

横紋は不完全



体形は矮小化

④矮小燈色型ヨシノボリ（偽燈色型）

豊川水系のヨシノボリ類の生息分布状況

調査場所 名	早瀬 (流れの早い瀬)				平瀬(比較的ゆるやかな瀬)			
	流速	水深	寸法	種類	流速	水深	寸法	種類
大名倉 (設楽町)	m/s 0.75	cm 60 70	mm 40 45	③	m/s 0.2	cm 20 30	mm 20 30	①
松戸橋 (設楽町)	0.6	50 60	60	③	0.1	20 30	10 20	③
清崎 (設楽町)	0.4	30 60	50 60	③	0.2	30 40	30 40	③
田峰 (設楽町)	0.4	30 60	30 40	③	0.1	30 40	10 20	③
只持 (鳳来町)	0.3	30 40	—	—	0.1	20 30	10 20	②
海老 (鳳来町)	0.3	20 30	30 40	④	0.2	20 60	10 20	④
長篠 (鳳来町)	0.3	40 50	40 50	③	0.1	20 30	20 30	②
桜淵 (新城市)	0.4	30 50	—	—	0.1	30 40	20 30	②
当古橋 (豊橋市)	0.3	30 40	40 50	②	0.1	60 70	70 80	チチブ

調査：62・5・17～62・9・6(のべ10日)

## 愛される都市の中のため池

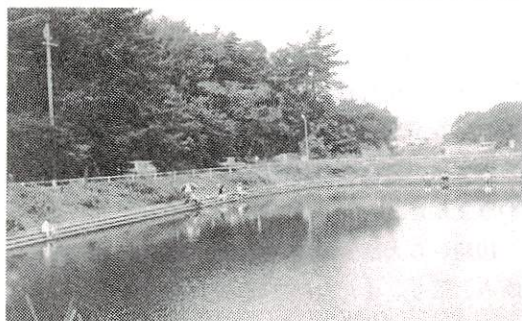
玉井 房子（日進町）

昭和36年の愛知用水の供用開始、40年代の区画整理や宅地開発の進行によるため池の埋立（学校・グラウンドに）や水田の減少により、排水対策の目安となる大雨（1時間50mm以上）の時にしばしば水害が発生するようになりました。このため、調整池としての役割が再認識された都市近郊の「ため池」は、都市河川と共に貴重な水辺のある空間として見直されました。さらに、「ライフスタイルにつながる魅力ある地域を」との動きが始まったことは歓迎すべきでしょう。

この一年間、名古屋市東南部及びその近郊24カ所のため池の環境と色・透明度の関係などの観察をしてきました。それを通じて、人々に愛され、親しまれている都市の中のため池はどんな形態が好ましいのでしょうか？池にどのようなことを期待しているのでしょうか？延べ114回の観察行の中、300人近い人との触れ合いで感じた「ため池」に対する理想像を集約してみました。

多くの人々は、池に心の安らぎと憩いの場を求めており、それにふさわしい池とその周辺が豊かな自然景観であって欲しいと願っているようです。次いで、水辺との触れ合いをということでした。

それは早朝の水鳥達の乱舞であり、カイツブリの見事な潜水であったり、雨の日の優しい表情であり、晴れた日に少年達が空瓶でスジェビやモロコを採ることであり、熟年の釣り人達の語り合いといった、水と自然との触れ合いへの期待でした。



双子池（名古屋市天白区）

そうした望みを満たす「ため池」とは……。自然の姿を残した土の堤防と水面に向って芝や草のある緩やかなスロープがあれば、降雨後の汚濁を少なくするし、それに続くヨシ・ガマなどの抽水植物、ヒシ等の浮葉植物、ホテイアオイ等の浮遊植物、クロモ等の沈水植物の広がりがあれば動物達の隠れ場所や繁殖場所になるでしょう。また、水草は栄養分を吸収し池の浄化にプラスし、池の色を透明度の高い裏菜色に変えるでしょう。できるならば、池の一部に素足で水と触れ合える砂地があれば最高なのですが……。

こうした形態の池と、それに繋がる四季折々に微妙な変化を見せる自然と動植物が豊かに生きていける環境を持つ「ため池」がもっとも望ましいのではと思いました。その意味で24の池から独断で「愛される池」ベスト3を選ぶと、双子池・大池公園・牧野ヶ池になりました。

池をメインに、野鳥のさえずる雑木林・竹林・梅林が広がりを見せ、多目的芝生広場・図書館など文化ゾーンを巧みに調和させた東海市の大池公園は、水辺のある都市空間のあり方の理想像として、一つの提唱をしているのではないかと思います。

今回の観察では、池の水の色彩の変化を主要なテーマとしましたが、その色の表現として、「日本の伝統色 265色」（大日本インキ化学工業KK発行）を使ってみました。あまり聞きなれない表現が出てきますが、これこそ、池の水の色を表すのに適当だと思ったのです。

927年(延喜5年)に完成した延喜式には既に我が国古代の色、約30種が作り方と共に記載されているようです。2～3を挙げると茜あかねの根を白米と煮出してつくる「茜色」、マメ科植物の蘇枋あけの煎汁からの赤系の「蘇枋色」や、藍あいだけで染めた「靛色」はなだ、キハダきはだの樹の内皮が原料の「黄蘗色」などは、レトロブームの中、女性あこがれの流行色になってい



## 協議会行事報告

るようです。また、「露草色」の青は、今でも草津市(滋賀県)の農家で栽培され、日の出前に花を摘みとり(そのため月草の名もある)、西陣に送られて友禅の下絵として使われるなど古代の色も現代に生きついています。このように中国伝来の手法を受け草木染で造られた古の色は、一方で高貴な人の服の色として、また宮延女官の優れた色彩感覚による十二単衣の累という様式美を生み出すなど、桃山時代の絢爛と開花した色彩文化への歩みを既に始めていたようです。

こうした日本の豊かな自然の中、花ばな・葉・樹皮・根っ子・秋を彩る木の実等から採色した伝統色こそは微妙に移り変わる池を表現するには最適ではと考えて、今回「日本の伝統色」を使いました。この色により、居合わせた人たちの意見を総合して客観的に池の色を表現してみました。

その結果、年間を通じ色変化のない池、季節により変わる池などを通算して、最も多かったのはオリーブ色系で、内訳は「鶺鴒茶色」5・「鶺鴒茶色」3・「オリーブ色」「オリーブ鼠色」「木蘭色」「鶺鴒色」「老竹色」の各2・「海松茶色」「海松色」「山鳩色」の各1。緑色系では、「常盤緑色」「木賦色」各1。ほかに透明感の高い「裏葉色」などに分類されました。

終りに観察中のエピソードを少し紹介させて頂きます。廃水口工事(61年9月26日からの工事)のため水抜きした弁天池(日進町)は周囲約780mのため池ですが、最長50cmのコイ始めフナなどが2トン車で3台分がすくわれ、付近の三ッ池等に移されました。また、ある池の湿地ではシラタマホシクサなども見られましたし、松林では毎秋マツタケを採集するとの話も聞きました。新ら田池を観察中、近くにお住まいの人から樹林でシカの足跡を見つけたとの話も聞きましたが、後日NHKテレビでシカを写された人の写真と共に放映されましたので、御存知の方もおありでしょう。昨年の11月中旬の昼頃、古街道の調査をされていた日進町在住のMさんら2人が三好事務所近くの造成地のため池で棚内に入り込んで出られなくて困っていたキツネを目撃……の話も聞きましたが、開発の進む名古屋の近郊でもまだまだ自然が残されているのかと、ほのぼのとしたものを感じました。

指導員再研修 62・12・12(土)～62・12・13(日)

協議会初の試みとして指導員再研修が、岡崎市桑谷山荘で催されました。参加者は、少なかったのですが、支部の枠を越えて熱気のある討論ができたのは、大きな収穫でした。

今回の再研修の担当者として、心掛けたことや気のついたことを述べますから、今後の参考にしてください。

運営委員として、再研修担当を希望したのは、集団カウンセリング的な実践ができると思ったからです。しかし、これを計画し、実行に移すのは並み大抵のことではありませんでした。

まず、対象者を、第1線で活躍している人を除いて、観察会でリーダーの役割りを演じられない・演じない人達としました。自然に親しむことはできても、他人と自然との触れあいを演出することができない人達に参加してほしかったのです。そこで、内容としては、人と人との触れあいを考え、自己紹介に十分な時間を取りました。話すのが苦手と言いながらも、全員がよく話されましたが気楽に話せるように席順もなく向かいあって座るようにしたのがよかったようです。

次に、「話し方のポイント」の講義をしました。私も、わずか2年間の教壇体験で多くのことを学びました。「聞きやすい声・速度」「相手の反応を見ながら、聞き手のレベル・関心にあわせて話すこと」「わかりにくい言葉の言い換え」等々。

全員のコミュニケーションができたところで、次に観察会の留意点等の講義をしました。その中で、協議会の基本方針が資料として出されましたが、これを読み合わせて内容を論議する時間が必要だったと思います。

「運営の実際」としては、県内での自然観察会のスライドを映写しましたが、この中で山菜を食べるシーンがあり、翌日起こった「キノコ狩り事件」とともに、最後の自然保護についての議論に結びつけました。

10時から大部屋にて、交流会を開催しました。飲み、語り、また自然破壊の現況のスライドをネタに論議しました。また、別室では観察会のあり

方について、3時まで論議していたグループもあったようです。

翌朝は、ベテラン指導員を中心に現地の自然を観察しました。私としては、指導者のもとで早朝観察し、気楽な形のワンポイント指導を考えていたのですが、ダラダラ観察になってしまいました。

最後の「自然保護について」の演習では、採集の是非が問題になり、助言者として参加していた自然保護協会の横山さんの、「TPOを考えて」でまとまりがつかしました。

終了後、参加者全員に感想や要望を書いてもらいました。「同じ場所で同じ内容なら2度とこない」という厳しい意見もありましたが、自分自身の今後の抱負を書かれた人が多く、皆さんの積極性を感じました。

全体的にみて、もっと自由に、参加者自身が問題を見つけ解決する場にできればよかったと思いました。例えば、スライドで視覚的なイメージを補いながら観察会の体験発表をしてもらい、みんなで理想的な観察会について考えるというようなものです。

今回は、当初の方針と異り、ベテラン指導員の参加が多かったため、議論は白熱しましたが、結局、横山さんの助言で結着をつけることができたというような形になりました。

来年の指導員研修への皆さんの参加をお願いします。

(岡崎市 武田篤)

#### 運営委員会 (12.19)

出席7名。63年度事業計画について、おおまかに内容の検討を行いました。新しい事業としては6月5日に全員一斉の自然観察会を行うこと、調査として、水生昆虫分布調査、ブナ科樹木分布調査及びは乳類分布調査(資料集収)を新たに行うこと、研修は植生調査2回、土壌生物1回、指導員研修、視察研修を行う計画となっています。会員の皆様の御協力をお願いします。その後で、自然観察会のあり方について、フリートーキングで検討を行いました。

#### 運営委員会 (1.9)

出席8名、62年度の最後の運営委員会です。始めに、63年度事業計画について運営委員の役割分担を定めるなど実施体制を中心に検討しました。次に、前回の続きで自然観察会の今後の進め方等についてフリートーキングで話し合いました。その主な意見としては、次のようなものがありました。(前回を含む)

- ・ 自然観察会のPR方法を検討すべきである。新聞だけではあまり効果がないよう。
- ・ 指導者が限られているため、各支部とも一部の者に負担がかかっている。何とか多くの指導員が出席できるようにしたい。
- ・ 出席した指導員の役割をはっきりさせることも大切である。指導できない者でも危険防止、記録等行うことはある。
- ・ 観察会に何回が参加する者が増えており、こうした人をどのように指導するかは、今後の課題である。
- ・ 班分けで、親子を別の班にするような思い切った方法も検討したい。
- ・ 観察会で「名前にこだわらない」とか「採集しない」といった協議会の方法が最近は少し不徹底になってきている。
- ・ 観察会では、常に目的やテーマをはっきりさせたい。今度は自然を楽しむことを主とするとか今回は人間とのかかわりを中心とするなど。
- ・ 定員のある観察会は、それを大巾に越えないようにすべきである。
- ・ 保険とか事故対策は、各指導員に周知すべきである。

(佐藤国彦)

#### 会 員 移 動

##### <加入>

中居靖男 豊橋市東岩田3-2-20 東三河支部  
千種仁美 長久手町長湫西作田10 尾張支部  
榊原秀子 半田市出口町2-223-2 知多支部  
山田一孝 名古屋市東区大幸町7-25 名古屋支部

##### <脱退>

安東しげみ・原田哲男・玉置嘉彦・藤嶋正人



## 行 事 案 内

2・20(土)～21(日) 名古屋支部 雪上観察会(豊根村茶白山) 申し込みは福西まで
2・21(日) 知多支部 昆虫の冬越し観察会 東海市農業センター 9:30
2・28(日) 東三河支部 自然観察等研修会 豊橋市文化会館 13:00
3・6(日) 協議会 総会(名古屋市中区錦) 第1生命ビル2F 13:00
3・13(日) 尾張支部 月例観察会 名鉄善師野駅前(犬山市) 9:00
3・20(日) 名古屋支部 観察会下見 相生小学校東門 10:00
3・20(日) 知多支部 観察会下見 野間大坊(美浜町) 10:00
3・27(日) 西三河支部 一般公募観察会 飯盛山登山口(足助町) 10:00
4・10(日) 尾張支部 月例観察会 JR定光寺駅前(瀬戸市) 9:00

### 前 号 の 訂 正

前号に次の誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

- P. 14 24行目 北岸政男さんの住所  
江南区→江南市
- P. 14 28行目 古川千枝子さんの姓字  
吉川千枝子→古川千枝子
- P. 14 30行目 柳川菊蔵さんの姓字  
柳川菊蔵→柳川(なぎかわ)菊蔵

## お 知 ら せ

### ◎ 指導員の登録について

昭和56年犬山市、昭和59年に講習会を受けられた方(No.1500～1700, 3600～4400)は、63年3月に登録更新手続きが必要となります。用紙は2月初め頃日本自然保護協会から送られてきます。不明の点は事務局へ、お問い合わせください。

なお、今までに更新されてない方も事務局へ御連絡いただければ更新できます。

(事務局：県自然保護課 052-961-2111 村田)

### ◎ 63年度各支部連絡員

協議会が行う研修会等の行事への申込み、問い合わせ、住所変更等の連絡は、次の各支部連絡員でも受付けます。

- ・名古屋 国枝利満 ・尾張 伏屋光信
- ・知多 降幡光幡 ・西三河 水鳥富人
- ・東三河 鈴木友之 ・奥三河 杉山茂

### ◎ 協議会の総会について

行事案内にありますように、3月6日(日)午後1時~~正~~から総会を開催します。従来の総会よりイベント的な色合いを濃くし、会員の撮影した写真や講習会の写真等の展示、支部の活動報告、会員の実施した観察の発表等を大幅に増やしました。みんなで楽しい総会にしたいと思いますので、是非御参加下さい。~~~~~総会です。

### 【 編集後記 】

初めて機関紙の編集をしましたが、わずか16ページの構成に、こんなに苦労するとは思いませんでした。何とか年4回の発行を守りたいと思いますので、どうぞ原稿をお寄せください。(北岡)

編集事務局：名古屋市千種区千代ヶ丘  
1-103-110(渡並)